

事業所名	社会福祉法人無量会 なでしこ					公表日	2025年1月15日	
	利用児童数	26名		回収数	14部			
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13			1		保育園の跡地を一部改修し事業運営を行っている。療育室のほか、運動場、遊戯室、学習室が設けられており十分なスペース確保が行われている。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	1		2	余裕をもってもう少し欲しい	人員配置基準は余剰ある状態で満たしている。今後も利用状況に合わせて適切な人員配置を心掛けていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12			2		スケジュールを管理するトランジションエリア、プレイエリア、ワークスペースなど構造化を取り入れ、見て分かりやすく、活動内容が理解しやすい環境設定を心掛けている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13			1		スタッフが利用が始まる前後に清掃を毎日行うようにしている。用務員を雇用し施設内外の整備も実施している。また、1人1人の利用児に合わせた空間の構造化も行っている。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13			1		子どもと保護者のニーズをふまえ、アセスメントを基に客観的に分析しプログラムを設定しています。支援プログラムは個別支援計画に明記し説明と同意を得ています。
	8	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13			1		個別支援計画書には本人支援の5領域（健康生活、運動感覚、認知行動、言語コミュニケーション、人間関係社会性）と家族支援、移行支援の項目を設定しそれぞれ目標を設定しています。
	9	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）に沿った支援が行われていると思いますか。	13			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1		1		年間スケジュール、月間スケジュールをスタッフ間で話し合い療育活動を決定しています。運動、音楽、制作、ソーシャルスキルゲームなど活動プログラムが固定されないように設定しています。
	11	保育所や認定子ども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1		5		機会は少ないが、園や学校の行事や1日の流れを考慮し通所してもらおうような調整は行っている。
保 護 者 へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13			1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1		3		保護者会を実施しているほか、LINE等の連絡手段を活用し、家庭でできる支援等も提案している。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12			2	面談を受けていない	面談は初回に必ず実施し、半年毎にモニタリングを実施している。他事業所の相談支援専門員と面談を行うこともある。面談の機会を今後も設定し、丁寧な説明を心掛けていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					利用児、家族の思いを尊重した関わりやコミュニケーションを重視しています。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	1		5	交流は現在ない	保護者会は年に数回開催し、毎回10名前後の参加者と、同法人内事業所の職員も含めて開催している。今後も保護者の要望を伺いながらテーマを決定し継続予定。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7				7	自己評価結果はホームページに毎年公表しています。研修会や保護者会がある場合は個別に連絡やパンフレットを作成し周知しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13				1	個人情報等の書類は施錠し管理している。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	1		4		各種マニュアルは策定しており、警報時など必要に応じてマニュアルの情報開示は行っている。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			6		年に2回児童発達支援事業、放課後等デイサービスの各事業ごとに避難訓練を実施している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9				5	子どもの安全に配慮した環境設定を心掛けています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	1			3	事故等が発生した場合、すぐに保護者にご連絡し対応することは日頃から心掛けています。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14					
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					

事業所名	社会福祉法人無量会なでしこ		公表日		2025年1月15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	工夫していることが多く勉強になるが人員不足を感じる時はある。	人員配置基準は余剰ある状態で満たしているが、段差が残る箇所はいくつかある。今後の改修計画で検討していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	車椅子介助が必要なのでバリアフリー化されると良いと感じる。	元保育園の施設を一部改修し事業を行っているが、段差が残る箇所はいくつかある。今後の改修計画で検討していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1		スタッフが利用が始まる前後に清掃を毎日行うようにしている。用務員を雇用し施設内外の整備も実施している。また、1人1人の利用児に合わせた空間の構造化も行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	分からない。アンケートは参考にしている。	今後も自己評価アンケートや定期的な外部監査を受けることで業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	2		虐待研修やハラスメント研修等を定期的に行っている。療育に関する研修会等の情報共有も積極的に行い、自己研鑽に努めている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	9			
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9			
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1		支援計画はモニタリングをふまえ、スタッフ間で検討した上で作成している。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9			
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1		支援開始前後の打合せは意識して行っているが、十分に振り返りが行えない場合は日によってはある。利用児の様子について検討する機会を引き続き作っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	<b>【放デイのみ】</b> 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7			
	25	<b>【放デイのみ】</b> こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8	1		直接的なスーパーバイズの機会はないが紙面での情報提供等により情報共有は行っている。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	1		機会は少ないが、園や学校の行事や1日の流れを考慮し通所してもらうような調整は行っている。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9			
	32	<b>【児発事業所・児発センターのみ】</b> 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	33	<b>【児発事業所・児発センターのみ】</b> 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	34	<b>【児発センターのみ】</b> 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	<b>【児発センターのみ】</b> 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
36	<b>【児発センターのみ】</b> （自立支援）協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
37	<b>【放デイのみ】</b> 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6				
38	<b>【放デイのみ】</b> 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6				

	39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	40	【放デイのみ】 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
保護者への説明等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9			
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9			
	46	子どもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9			
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	49	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1		
	51	【放デイのみ】 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		出会う機会が限られているが、出来得る範囲で保護者支援は行っている。	モニタリング以外に送迎のタイミングやLINE等の連絡手段を活用し、保護者支援を継続していく。
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9			
	55	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	57	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1		ヒヤリハット報告書、事故報告書を必要に応じて作成し再発防止に努めている。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1		虐待防止研修は年に1度実施している。

60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9			
----	--	---	--	--	--

○事業所名	社会福祉法人無量会なでしこ		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日		令和6年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	77人	(回答者数) 47人
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		令和6年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	3事業（児童発達支援事業、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業）を多機能事業所として運営している。事業所と家庭、園や学校と連携が図りやすい体制が整えられている。	・保護者とはモニタリングをはじめ、細やかな電話、LINE等の連絡手段を活用した報告、連絡、相談を意識して実施している。 ・学校とは保育所等訪問支援やトライアングルプロジェクトを通して密な情報共有を実施している。	・園や学校、保護者との会議や面談の機会には積極的に参加していく。 ・保護者との密な情報共有を図り家族支援を充実させていく。
2	学校や園での情報と、利用児の思い、保護者のニーズに対してタイムリーな対応を心掛けている。	・こまめに家庭と関係機関から普段の生活での様子を聴取している。（訪問時、送迎時、モニタリングの機会を通して） ・環境設定や行動面の調整が必要になった場合、すぐにスタッフ間で対応を検討し、日々の療育計画の変更を実施している。	・継続して細やかな情報収集を行い常に利用児に合わせた支援を心掛けることができるように努めていく。
3	アセスメントに基づいた療育を実施している。	・行動分析や必要に合わせて心理発達検査によるアセスメントを行い、療育技法を活用したティラーメイドの支援を行っている。	・研修会等に今後も積極的に参加し、知識・技術の研鑽を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設設備、教材、人員といった利用児に合わせた対応を行うための環境調整の不足がある。	・清掃等は日頃行っているが、段差解消等の施設設備バリアフリー化がなされていない部分がある。 ・人員配置基準は余剰ある状態で満たしているが、多機能事業所ということもあり、3事業の事務処理や準備も含め余裕を持った業務遂行が難しい時がある。自立課題等の教材作成にかかる時間が足りないことはある。	・今後も利用状況に合わせて適切な人員配置を心掛けていく。 ・必要な事務処理や教材準備の整理、時間の設定等を検討していく。 ・利用児に合わせたバリアフリー化を進めていく。
2	全体で行うケースカンファレンスが少ない。	・多機能事業所として運営しており、各事業での利用前後のカンファレンスは実施しているが、全体でのケースカンファレンスはまだ月1回程度。	定期的なケースカンファレンスの機会を検討していく。
3			